

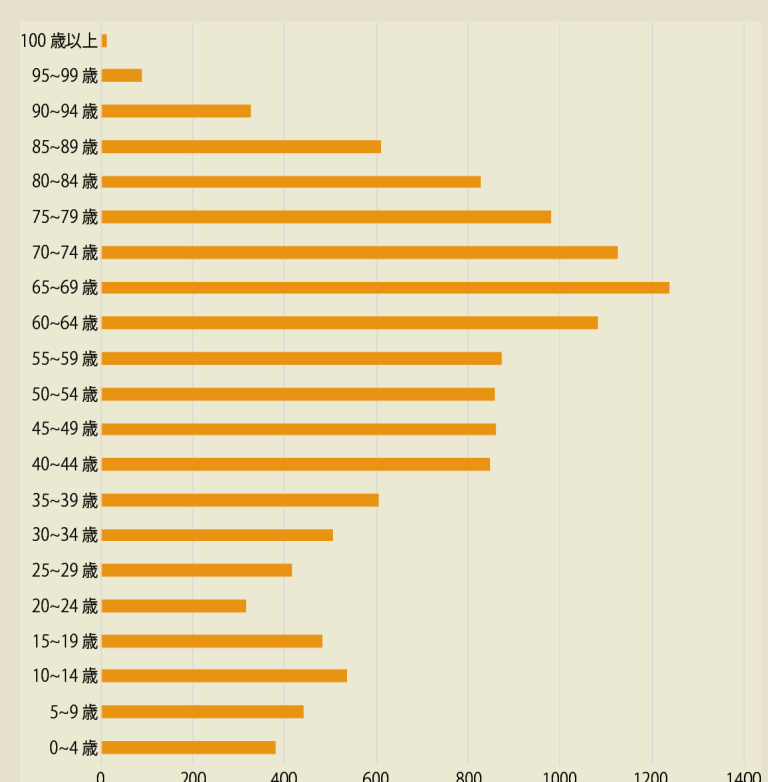


海と都市と向き合う暮らし

- 愛媛県八幡浜市における事前復興計画の提案 -

八幡浜の概要

中心市街地人口

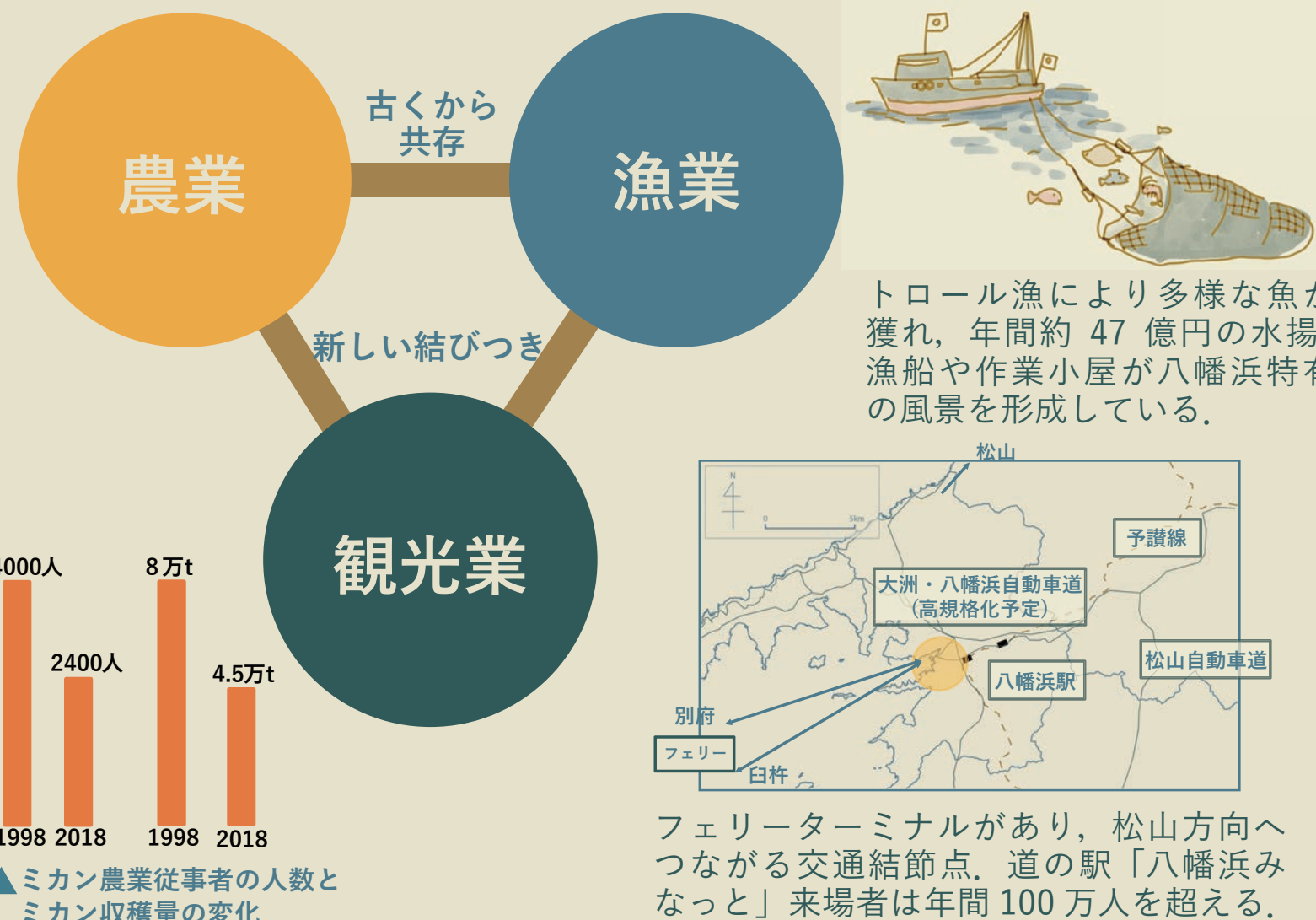


八幡浜市全体の人口は 3 万 5 千人程度 (2017) であり、南予の中心となる街。高齢化率は 37.5% となっており、生業の担い手不足も抱えている。

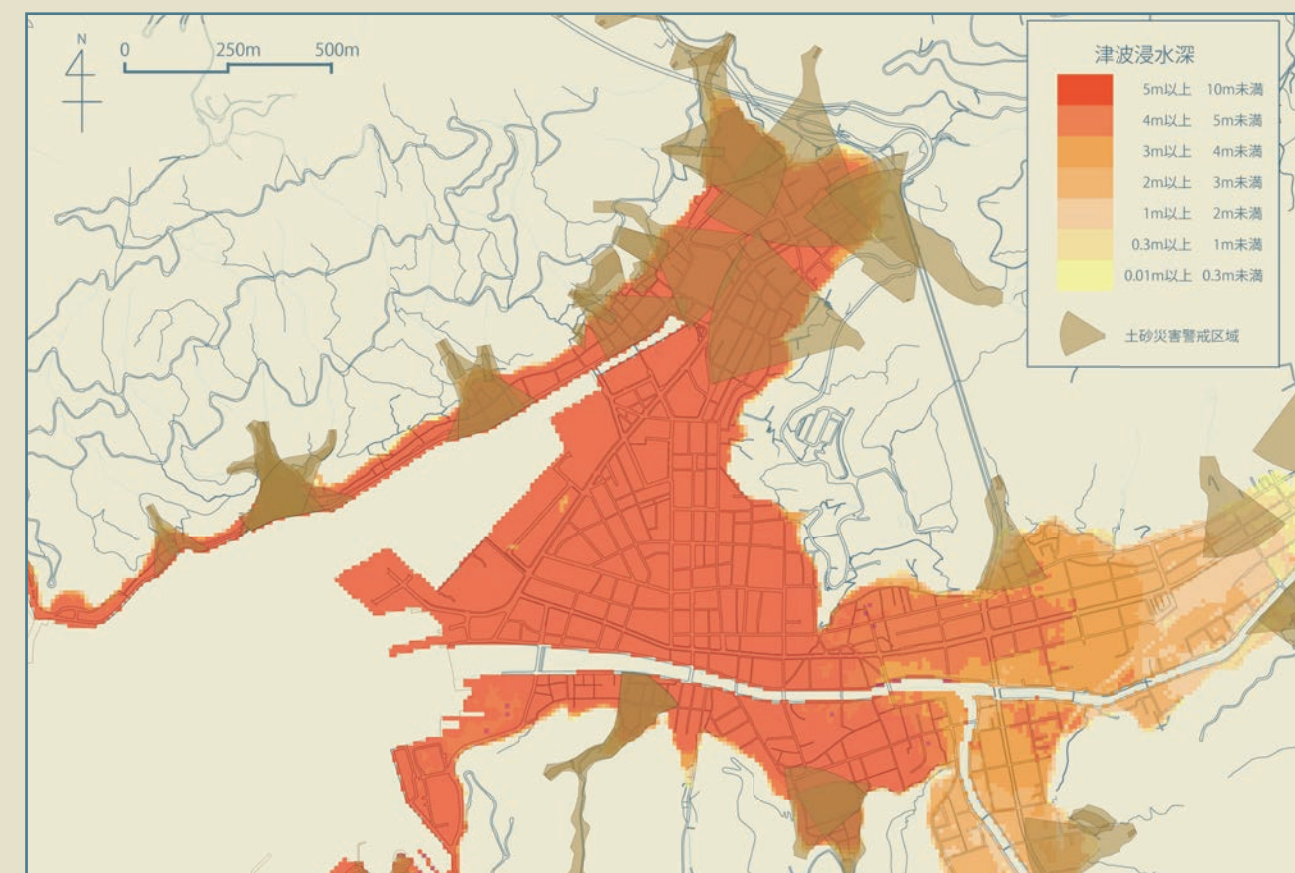
八幡浜の生業



海沿い南向き斜面がミカン栽培に適しており、高いブランド力を誇る。海と段畑が形成する景色が美しい。しかし、人口減少に伴い収穫量の低下が進行。



南海トラフ地震における被害想定



中心市街地では揺れ・津波・土砂災害による複合災害が起きることも想定。低地部は 4m 以上浸水し、壊滅的な被害を受けることが予想される。

復興プロセスの各段階における課題



コンセプト

「海と都市と向き合う暮らし」：海とともに暮らし、人々が集う八幡浜。そこで安心して住み生活を営む。

①リスクに応じた暮らし方を提示

ライフステージごとに変化する避難のしやすさに応じた住み方を「選択肢」として提示する。



②生業の早期復興

農漁業・関連産業・飲食小売業の早期再開を可能にし「八幡浜」に住み続けてもらう。事前・事後復興をきっかけに生業を再編する。



現況



被災前



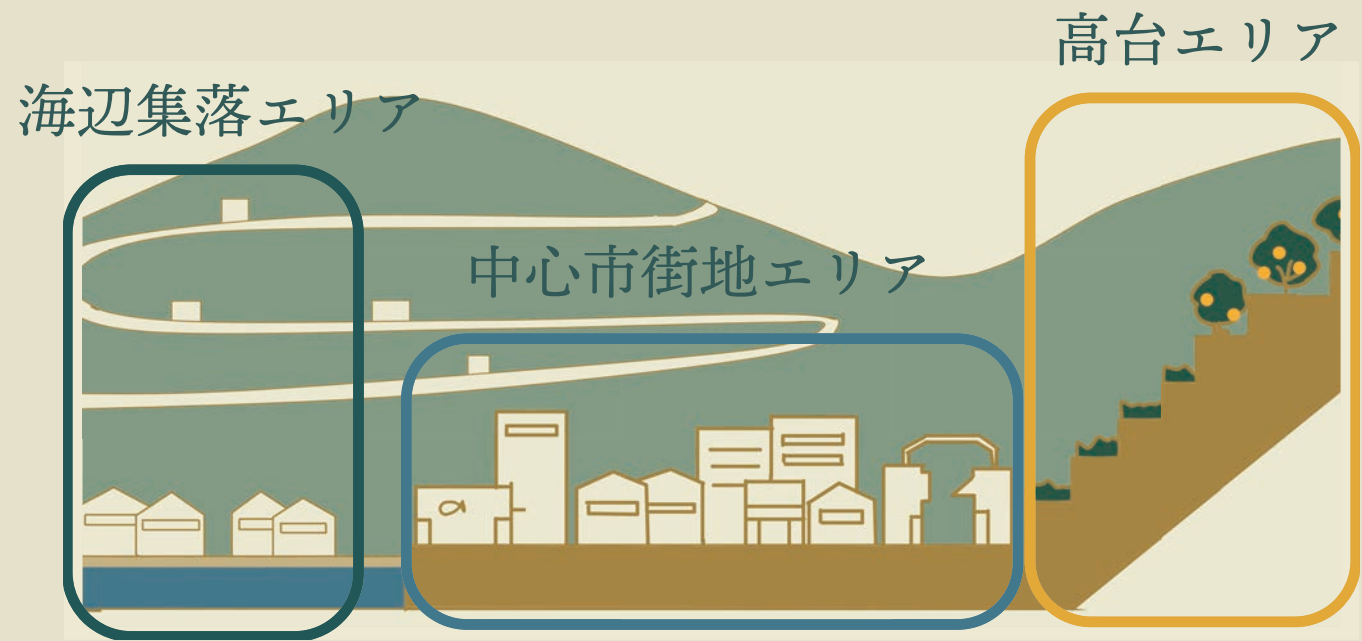
被災後



復興後



プラン



海辺集落エリア

「ストック活用によって高台暮らしの選択肢を増やす」



▲ 段畑にそって建つ作業小屋



▲ 大学による小屋改修ワークショップを行う

■ **高台のストック活用**
柑橘農家の作業小屋を別荘化
海辺集落エリアには柑橘農家の作業小屋が多く分布している。これらを改修し別荘化することで、みなし仮設となりうる高台の住宅ストックを増やす。

■ **平時・非常時を問わず活用できる第二の住宅**

日常時は休憩場や収穫バイトの宿泊所として活用し、非常時には仮設住宅や避難所として活用する。

■ **大学による普及・住民による実装・行政による補助**

実装段階ではまず大学主導で小屋改修ワークショップを行い、住民の関心を高める。その後行政による改修の制度的な補助を行い、住民が主体となって改修を進める。

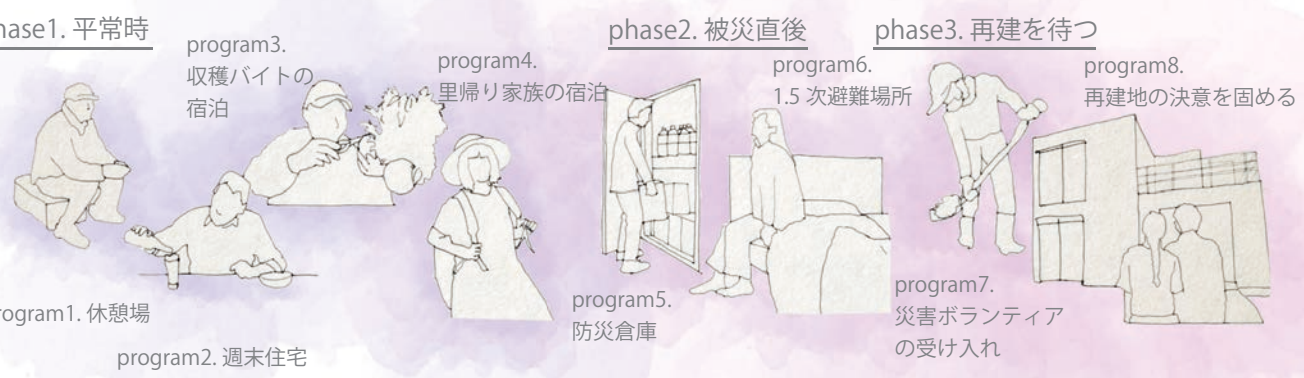


▲ 改修後の小屋の内観イメージ。日常的な休憩時間もあり豊かに。

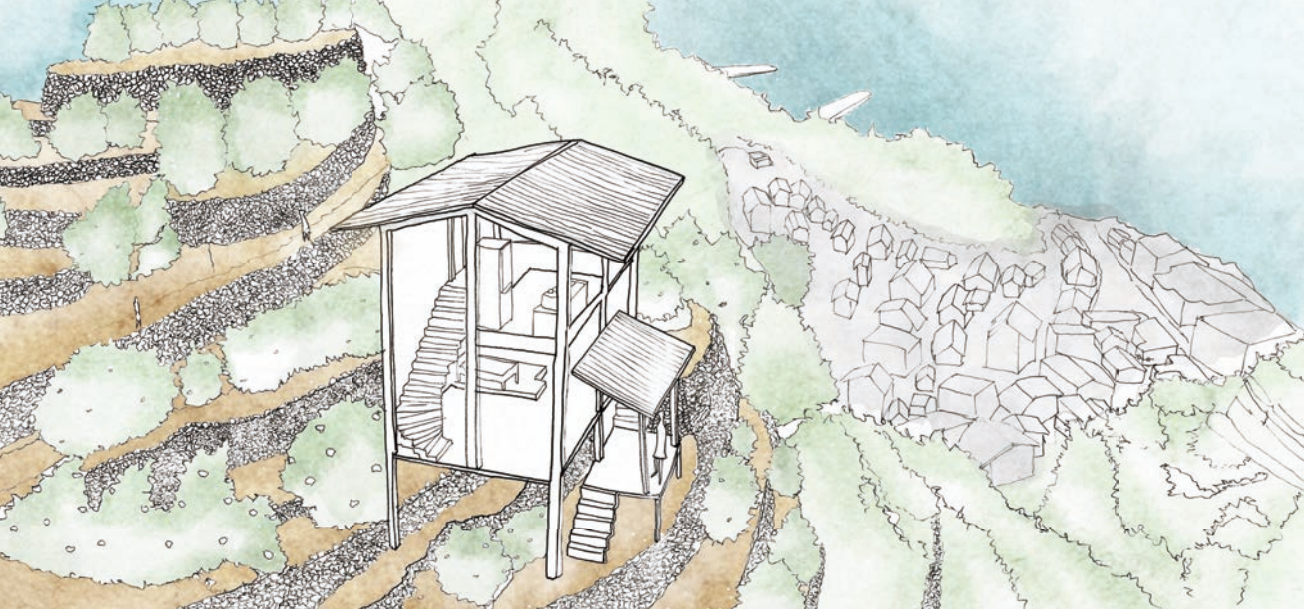


▲ 改修後の小屋の内観イメージ。地域行事の後に宴会を開く。

▼ 様々な場面で活用法



▼ 改修後の小屋の外観イメージ



中心市街地エリア 「商店街の早期復興による賑わい拠点整備」

仮設商店街

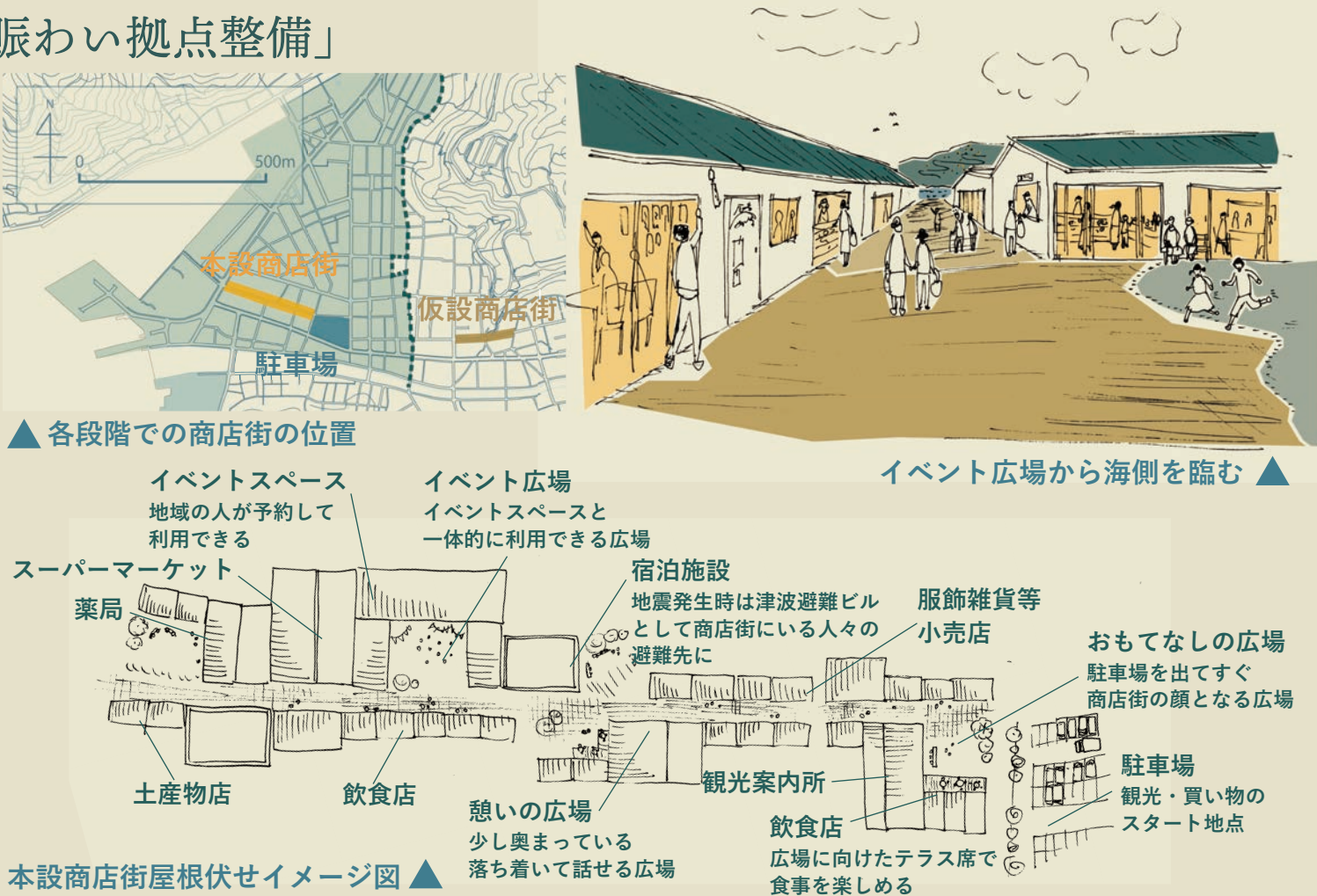
「早期設置により『八幡浜に住み続けられる』人を増やす」

被災後、仮設商店街を早期に設置することで、飲食・小売業従事者の生業早期再開を可能にするとともに、八幡浜に住み続ける人々の日常的な買い物の場を提供する。

本設商店街

「賑わいの軸として高台と低地部、住民と観光客をつなぐ」

高台と低地部に居住地が分かれ、被災前のコミュニティが分断されることが危惧される。そこで、憩いの場を豊富に備えた商店街を整備し、友人や店主に会うためにわざわざ訪れたいくなる場とする。さらに商店街の課題であった観光客の取り込み不足を改善するため、自動車で訪れた人の観光のスタート地点となる駐車場と観光資源の豊富な海側をつなぐ動線上に整備する。



高台エリア

「生業拠点と避難要配慮者の住まいの事前避難」



▲ 大規模な耕作放棄地

公共空地の少ない八幡浜。液状化により平地利用再開が遅れることを考慮すると、震災後の住宅用地が不足する。事前復興として左図に示した大規模な耕作放棄地を宅地造成し、災害公営住宅の用地とする。

また、その土地に予め避難の困難が予測される福祉施設と生業拠点を移転することで、人命・産業を守り、復興に備える。

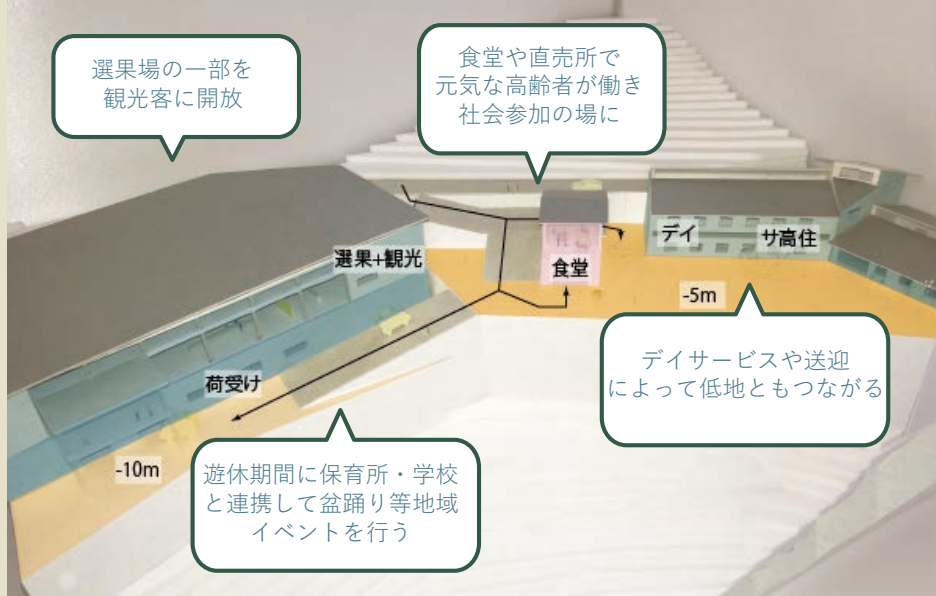
■ 愛宕山 - 選果場とサ高住移転による高台の豊かな暮らし -

■ 選果場の移転と高齢者の住まいを整備

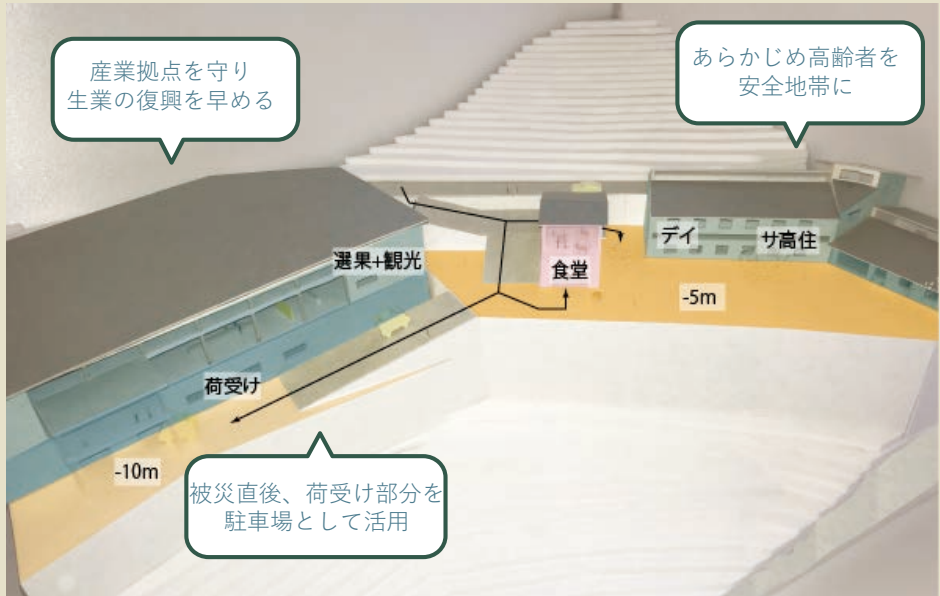
高台の中でも中心市街地に近い愛宕山には、集約移転のニーズがある選果場の移転先として活用する。また、避難要配慮者である高齢者の住まいとしてサービス付き高齢者住宅を整備する。

■ 地域に開き、観光資源に

高齢者・農家の拠点が高台に移ることによってコミュニティが断絶してはならない。低地部とつなぐプログラムとして、デイサービス等も合わせて設ける。また、選果場は観光資源としてのポテンシャルがあるので、観光スポット化し、観光客が高台に足を運ぶきっかけをつくる。サ高住居住者は選果場の直売所等で働けるようにし、社会参加の場を設ける。



▲ 平時の活用法
地域に開き、居住者・勤務者以外も高台を身近に使えるような工夫をする



▲ 非常時の活用法
産業や避難弱者を守るだけでなく、駐車場不足を緩和する

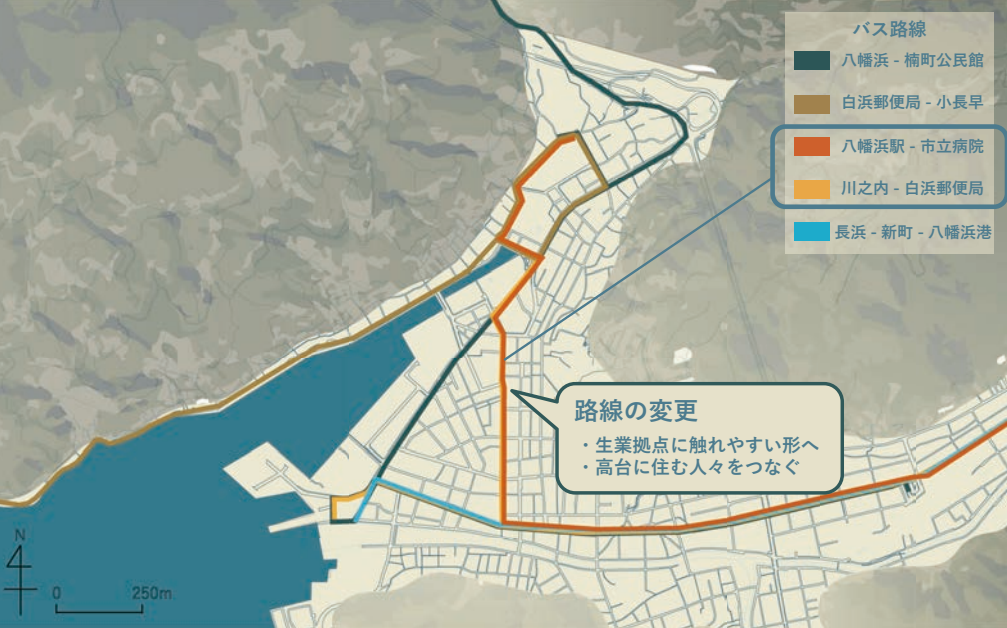
▼ 選果場断面パース



▼ 配置図 S=1:1000



各プランのつながり方



既存バス路線図。各路線の運行頻度は平日は1時間に1~2本程度、休日は1時間に1本弱程度。観光客がバスを利用する機会はいくつかの駅だけ寄って八幡浜から去ってしまう人も少なくない。

事前復興操作後ルート



既存ルートの変更を最小限に、観光客が八幡浜独自の良さを知れるよう生業の主要拠点へのアクセスを強化。「強い」関係人口の増加を目指す。同時に選果場への搬入アクセスと避難要支援者用の車避難路を確保する。

事後復興操作後ルート

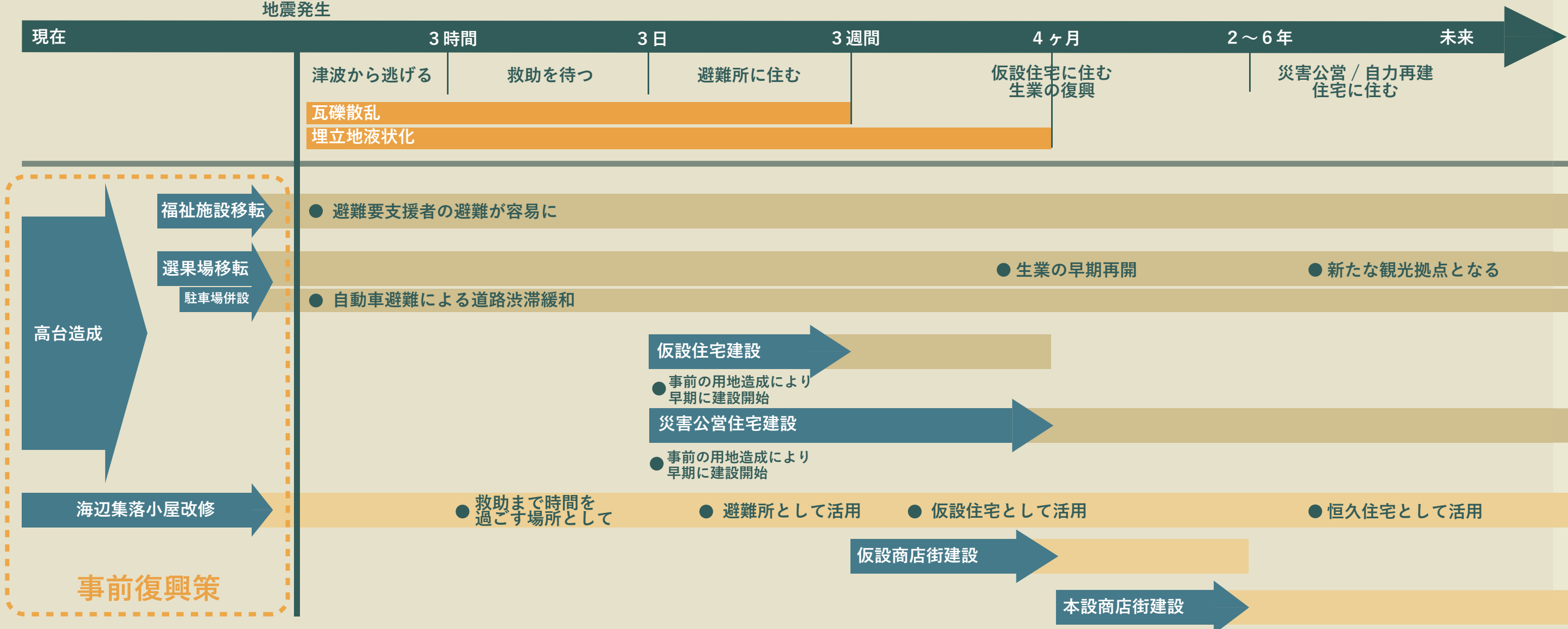


どの高台公営住宅エリアからも商店街へ行きやすい環境を作り、商店街と併せて他所ではなく、八幡浜で過ごしたくなる形を目指す。来街者の動線と重ねることで、外からの活気を感じやすくし、復興を目指す。

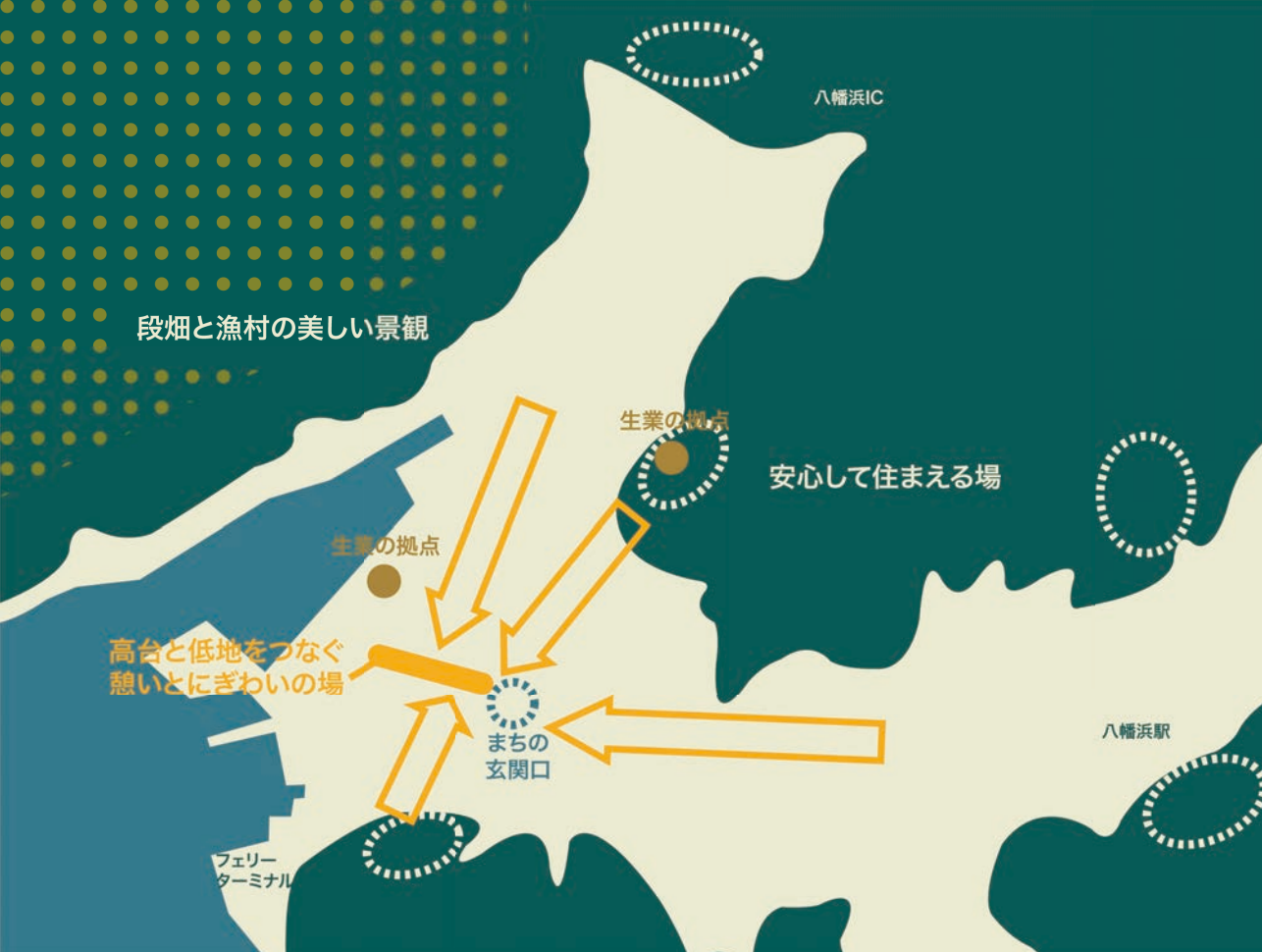
都市の重心が高台に移動した後も海のある平地で過ごし、交わり、生活を営む



提案のまとめ



事前・事後復興を通して目指す将来ビジョン



八幡浜をつくる海と都市と向き合い暮らしてゆく
生業とともに安心して暮らし続けられる都市へ